

■自動車運送事業審議会（専門部会）議事要旨

1 専門部会 設置経緯

- 令和7年5月30日（金）に開催された「令和7年度 第1回自動車運送事業審議会」において、市長より諮問された審議事項（市営バス事業の収支改善について）を踏まえ、高橋会長より、「高槻市自動車運送事業審議会規則（第4条第1項）」に基づき、専門部会の設置が提案された。
- 専門部会の設置について委員各位に承認いただくとともに、合わせて「井上委員」、「毛海委員」、「河崎委員」の3名を専門部会委員とすることが了承された。
- 専門部会の議事運営のため、「高槻市自動車運送事業審議会規則（第4条第3項）」に基づき、井上委員を部会長、毛海委員を副部会長に選任し、計2回の専門部会を開催したので、以下に議事要旨を報告する（資料－3参照）。

2 第1回専門部会 議事要旨（令和7年6月27日開催）

① 令和6年度決算及び令和7年度当初予算概要

- 昨今の諸物価高騰に加えて、人事院勧告に伴う人件費の高騰も相まって、市営バス事業の収支が急激に悪化している。これは民間のバス事業者も同様で、令和7年度は昨年度以上の人件費高騰が予想される。
- 今後の運転士確保を踏まえると、運転士の正職員比率を上げること検討された方がよい。
- DX化推進の中で、運賃収受のキャッシュレス化を進める際には、通信費用等のランニングコストにも留意された方がよい。

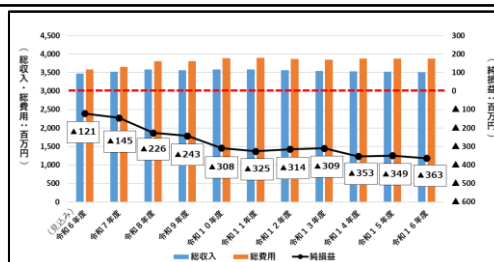


図1 市営バス事業の収支予測

② 市営バス事業の経営分析

- 車両の稼働率、1日1車当たり輸送人員及び料金収入、職員1人当たりの人件費等について、高槻市営バスが平均値を上回っており、効率的な経営環境であることが確認された。

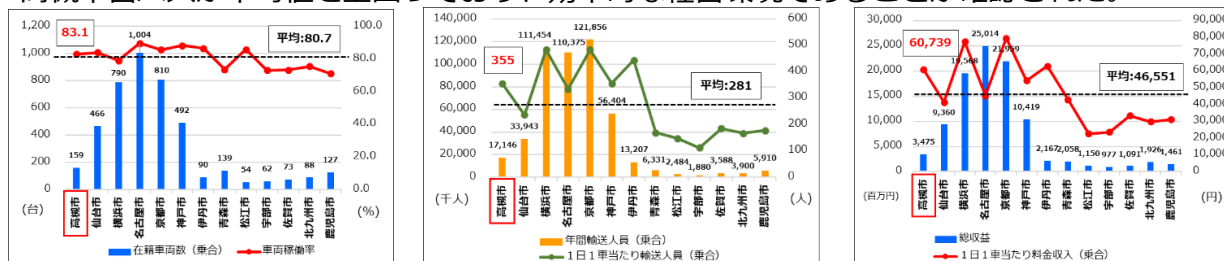


図2 高槻市営バスと他公営バス事業者との経営指標比較

- 市営バス事業の経営分析として、各種費用（人件費、物件費等）の実績値に基づいて考察を行った結果、費用のあり方は適正であるものの、今後は増加傾向であることが確認された。
- 高齢者福祉乗車制度の実績及び今後についても考察を行い、各種の課題が確認された。

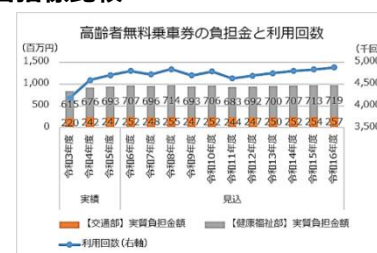


図3 高齢者無料乗車券の利用状況等

③ 答申書（目次案）について

これまでの審議会における各種検討資料及び前述の諮問、そして〈議事 1〉の結果等を踏まえ、以下に示す「答申書目次案」について審議を行った。

- 1 章 市営バス事業を取り巻く社会環境の変化
- 2 章 公共交通事業者として必要な社会的要請事項
- 3 章 市民生活に必要なサービスレベルを維持するための人材確保
- 4 章 経営基盤強化に向けた今後の市営バス事業経営の方向性
- 5 章 市営バス事業の経営分析等
- 6 章 中・長期的な収支改善を図るための方策

<当該答申書目次案に対する主な意見>

- ・公共交通事業者としての社会的要請事項に加えて、市営バス（公営企業）としての意義についても明確にした方がよい。4 章の経営基盤強化に向けた今後の市営バス事業経営の方向性の中で、まちづくりとの連携や市民の移動手段の確保、高齢者福祉乗車制度の考え方を示すのがよい。
- ・高齢者福祉乗車制度の利用者数や運賃収入はこれぐらいで、今後こういうことが想定されるといったことを示すのがよい。
- ・高槻市の都市構造がどう変わっていくのか、特に、人口構造がどう変わっていくのかということや、将来的にまちづくり自体を根本的に見直さないと市営バスの利用者層が変わってしまうといったことも示した方がよい。
- ・運転士や整備士等の人材確保について、重要な課題であるということをしかり整理すること。また、答申書の結びとして、市営バス事業としての適正な運賃水準のあり方について書いていただきたい。

3 第 2 回専門部会 議事要旨（令和 7 年 8 月 1 日開催）

① 答申書（素案）について

第 1 回専門部会における意見や指摘事項等を踏まえ、下記の章構成で整理された「答申書（素案）」に基づいて審議を行った。

【1 章 市営バス事業を取り巻く社会環境の変化】

- ・市営バス事業を取り巻く環境がどう変化するかについてしっかり書かれていることや、人件費及び諸物価も高騰する中で、運賃は全然上がっていないということが示されておりよいと思う。
- ・根本となる需要について、人口が高齢化することが想定され、高齢化が進んでいくと高齢者福祉乗車制度の負担が厳しくなるということがしっかり書かれていてよいと思う。
- ・今後、都市計画や産業立地など、大きなトレンドが出てくることがあれば追記するのがよい。

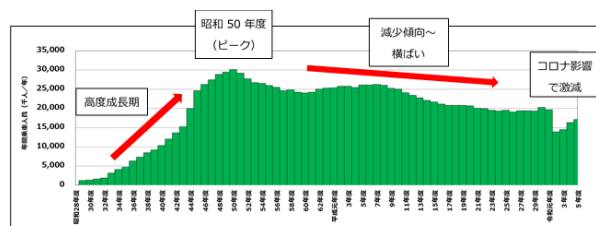


図 4 市営バス利用者数の推移

【2章 公共交通事業者として必要な社会的要請事項】

- ・市営バスも公共交通事業者であり、市営バス事業として必要な社会的要請事項、公共交通として求められる輸送の安全確保とDX化の推進があり、更に市のまちづくりということで、2章と3章を分けるのがよいか、まとめるのがよいか検討されてはどうか。
- ・公共とは何かということを強く意識されると、もう少し整理しやすくなるのではないかと。公共交通の公共というのは、運賃を払って私は乗りたいですと意思表示した人を排除せずに、誰でも運賃を払えば乗れるという門戸の広さが公共であると思う。



図5 ライフステージ別市営バスサービス

- ・輸送の安全確保とDX化というものが、今後の市営バスの役割として深く関わってくるといったような繋がりを整理するのがよいのではないかと。交通事業者だけではできない問題があると思うので、社会がしっかり公共交通の安全について受容することも重要である。

【3章 市営バス事業経営の方向性】

- ・情報を収集するだけではなく、今持っている情報やデータをどのように発信していくかもDXだと思う。SNSで発信していくのもよいことであるし、利用状況をもっと可視化することで、まちづくりとの関係性と絡んでいけると思うので、情報を収集してその見える化をして発信していくことを意識されるとよい。
- ・市の福祉施策との連携について、より便利なものを導入するには多額のコストが掛かっていくということがしっかり書かれているところがよいと思う。

【4章 中・長期的な収支改善を図るための方策】

- ・新しい需要を創造するというのは非常に難しいことで、本来、大事なことは、今乗っていただいている利用者を逃さないということであり、中・長期的に収支改善を図るためには大事なことで、その基本は大事にした上で、新たな需要創造の取組とした方がよい。
- ・乗務員の高齢化について、再教育や研修の改善、健康管理等は書かれているが、従業員の満足度や従業員の使用する施設などの改善、休憩のしやすさなども大事だと思う。
- ・4章は、必ずしもバスではなくてもよいので、高槻市交通部はバスを運行するだけではなく、みんなの移動をしっかり支えていくのだというような宣言をする部分だと思う。移動手段がバスであろうとセダン型の車両であろうと、しっかりみんなが移動できればよいということが大事だと思うので、そこを意識するのがよい。
- ・ここ最近、全く値上げをしていないということをもっと強く書いてもよいと思う。また、値上げではなく、適正な運賃水準というような表現を心がけていただきたい。
- ・値上げというよくないように思われるが、不当に上げるものではなく、適正な価格をいただかないと適正なサービスを提供できませんということであり、そういうものだということを強く意識して、社会的に発信していただきたい。